

## 0 理念

### 進捗状況報告

2002年度から、物理学科・化学科の2学科に生命科学科と情報科学科を加えた4学科体制となり、より幅広い自然科学分野の教育・研究を包含する学部体制へと改組が行われた。2005年度にはこの新体制が完成したことに伴い、4年間の実績を分析し、問題点を整理して卒業要件やカリキュラム等の見直しを行った。その結果、新設2学科でも人格形成に資するべき総合教育科目の幅広い分野の履修ができるように改正した。また、各学科毎に設定されていた開講科目を理工学部開講科目として集約し、科目の開講形態上、学科間の壁をなくした。これによって、他学科の研究室での卒業研究履修が学則上可能となった。また新設学科に設定されていたクロスボーダー科目の区分を廃止し、より自由な科目選択を可能とした。

理工学部の理念・目的の実現に向けての大きな動きとして、神戸三田キャンパス整備推進委員会の答申に基づき、2009年には新学科の開設が計画されており、今後さらに幅広い自然科学分野をカバーする学部体制となることが期待される。

国際性を涵養するとともに科学技術分野における英語運用能力を高める英語教育については、2005年度に理工学部の英語教育システムが文部科学省の特色GP事業に採択されたのに伴い、2006年度から英語常勤講師（IEFL）2名の増員が行われ、クラスの少人数化が進んだ。また、TOEFL-ITPに加えて3年生を対象とするTOEIC-ITPテストの受験料補助、関学英语フォーラムの開催などの活動を行っている。

理工学部の理念・目的の広報については、2006年度に理工学部独自のホームページを全面的にリニューアルし、各ページのアクセス数の分析などにより効率的な宣伝に努めたり、新聞広告を出すなどしている。また、オープン・ラボ、オープン・キャンパス、高校教員の訪問などの機会を利用して理工学部の教育内容について説明している。また、推薦依頼校や協定校への積極的な訪問も実施し、広報活動を行っている。

### 学内第三者評価

理念・目的等が明示されており、それらが具体的に記述されている点は評価できる。学部の目標と建学の精神との整合性についても配慮されている。学部としてめざしている方向が明確であり、特色が強く打ち出されている。

なお、特別委員からは以下の意見があった。

- カリキュラムの全面的見直し、英語教育の改善(文科省プログラムへ採択)、広報活動の面で意欲的な改善が行なわれている。進学率も大幅な改善が見られた。
- 全教員数の80%が専任である結果として、専任1人当たり学生24人という少人数教育の基盤が整ってきている。また卒業研究では指導教員一人当たり学生数平均6.8人ときめ細かい指導ができる状況になっている。
- 高校段階のカリキュラム変革と一般的な理数科離れの影響に対する補完対策に触れていないが、関学は入試などで大学教育にふさわしい学生を得ていると考えていいか。上記の好条件のもとで学生は授業に本当についていっていると考えていいか。